

世界金融危機とロシア極東経済

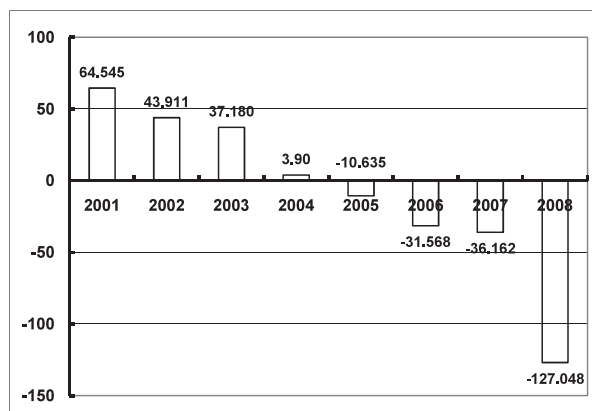
ロシア科学アカデミー極東支部経済研究所長 パーヴェル・ミナキル

エネルギー資源の国際価格が急速に上昇した結果、2001年からロシア経済は純輸出国となった。こうした中、貯蓄率の比較的低いまま（約20%）のロシア経済は必然的に、対外債権国となった。しかし、財の輸入と資本輸出の増加テンポが相対的に低い状態が続く中で、エネルギー資源およびその他原料の輸出による外貨収入の影響力がロシア経済に徐々に蓄積され、それはルーブル高（2001～2008年で約30%）が進む環境を作った。これが国民の名目所得の一本調子の成長とともに消費需要の急速な成長を促進したのである。輸出からの相当な収入は投資マインドが急速に高まる原因となった。これらのことすべてが、準備金の国外流出によるロシアの金融システムの流動性不足と並行して起こった。インフレ率が高いため年利は18～22%の水準で維持された。その結果、銀行による借入など民間部門の借入という形で貨幣資本の積極的な輸入が始まった。

結果的に、ロシアは2005年から純債権国から純債務国に変貌した。同時に、ロシアは依然として輸出指向型経済である¹。2008年、ロシアの対外純投資ポジションはマイナス1,270億ドルとなった（図1）。この際、民間セクターの対外債務は2007年末の時点で既に4,170億ドルとなっていた。

ロシアでは2008年半ばまでに、「他人の誤り」とは無関係に「三つ子のパブ」(証券市場、商品市場、住宅市場)が形成された²。これがロシア経済の中に金融危機の温床を作った。金融危機は世界資本市場の下落と外需ショック

図1. 2001～2008年のロシアの純投資ポジション
(単位：十億ドル)



が引き金となって始まった。

ロシア経済が「輸出国－債権国」から「輸出国－債務国」に移行したことは、ダブルショック（外需ショック、対外債務ショック）をもたらした。経済のマクロ的要素のどれ一つとして、このような「二重の」打撃に対する備えができていなかった。つまり、経済構造は内需に転換することができない一次産業に頼りすぎていた。銀行・金融セクターは、国外の金融市場に向かって金融サービスや借入の需要を、必要なだけ奪還するということができる状況になかった。この際、ロシアの経済主体の借入が輸出収入をあてにしていたことによって外需ショックに拍車がかかり、それが状況を悪化させた。原料市場における需要低下は、ロシア国内の生産量に影響を及ぼしただけでなく、ロシア経済への資金フローを相当に縮小させた。同時に、世界金融市場で資金を借り入れる可能性も減少した。

その結果、2009年初めには既に、ロシア経済は下降期に入っていた。ほとんどすべての主要指標について下降が記録された。2009年1月のGDP成長率がまだプラス5.6%の水準を維持しながらも2008年1月より鈍化していたことは、ほぼすべての産業部門のマクロ経済指標の完全な落ち込みと併せて、ロシア経済の状態がまもなく、「景気後退」に関する技術的定義に完全に当てはまるであろうことを物語っていた。そして実際に、2009年第1四半期にはロシアのGDPは2008年第1四半期比で15%以上縮小した。商品・サービス生産指数は2009年1月にはすでに2008年1月比87.5%であったし、工業生産指数は84%、貨物輸送量は85.3%、外国貿易高は82.7%だった。また、輸出は輸入よりも著しく減少した（それぞれ2008年1月比73.9%、96.4%）。失業率は8.1%となり、これは、景気後退状態にあることを1年以上前に正式発表していたアメリカの12月（2008年）の失業率を超えた³。

2009年1～9月にロシアのGDPは2008年同期比で約10%減少、工業生産量は12%強減少した。

金融危機が極東の景況に及ぼした影響

直近の過去7、8年間で、ロシア極東の経済発展は1990

¹ P.A.ミナキル「ロシアと極東における経済および危機」、『空間経済学』誌、2009年No.1

² P.A.ミナキル「ロシアと極東における経済および危機」、『空間経済学』誌、2009年No.1

³ 「2008年極東連邦管区の社会経済状況」国家統計局（モスクワ）、2008年。

G.I.ハニン、D.A.フォミン「2009年第1四半期のロシアの経済概況」、『EKO』誌、2009年No.7。

年代よりもかなり大きく連邦予算からの交付金など国内経済に依存するようになった。とはいえ輸出は依然としてこの地域の成長の重要な要素である。しかるに、2009年1～9月、ロシア極東の輸出高は前年同期比で42.0%減少した。その結果、域内総生産（GRP）に対する輸出の寄与度は2007～2008年の30～32%から、25%に低下した。これは、全般的な経済均衡と成長テンポを維持する上で極東とロシアのその他地域との連携の役割を著しく増大させた⁴。そしてロシア経済全体での生産量および所得の減少の影響を受けた需要低下は、ロシア極東経済にとっても需要全体が低下する原因となった。このように、ロシア極東地域はダブルショック（外需ショック、国内需要ショック）の影響下にあることが分かる。

2009年上半期、鉱工業生産の減少幅はロシア全体の11%に対してロシア極東では約18%だった。しかしこの際、採掘産業と加工産業の動きは異なっていた（図2）。採掘産業の生産量は2008年12月比で20%増大したが、加工産業の生産量は30%以上減少した。

縮小の度合いに応じて、産業部門を4つのグループ（国内消費者市場をターゲットとする部門、電力・燃料業、投資部門、一次産業）に分けることができる。

第1のグループの落ち込みが最も小さかった。これは、消費者需要の下落りが比較的緩やかだったためだ。特定の食品については、ロシア極東では2009年1～6月に生産量が増えさせた（肉の生産16.4%増、漁獲量4.6%増、缶詰生産54%増、植物性・動物性油脂および牛乳等の生産4

～6%増）。しかも、ルーブルの下落の結果、前述の食品のみならず、食品以外の比較的単純な製品についても、輸入代替が起こった（表1）。

発電量は、電力消費の慣性が大きいことと、いわゆるエネルギー資源の恒常的消費の占める割合が高いことを反映して、ロシア極東での落ち込みは小さかった。この間、燃料産業では石油の生産が33%増え、ガスの生産は22%増えた。これは、商業生産を始めたサハリンプロジェクトにとって石油市場の景況が良好だったためだ。石油および液化天然ガス（LNG）の販売開始はちょうど良いタイミングで燃料産業の好成績の原因となった。

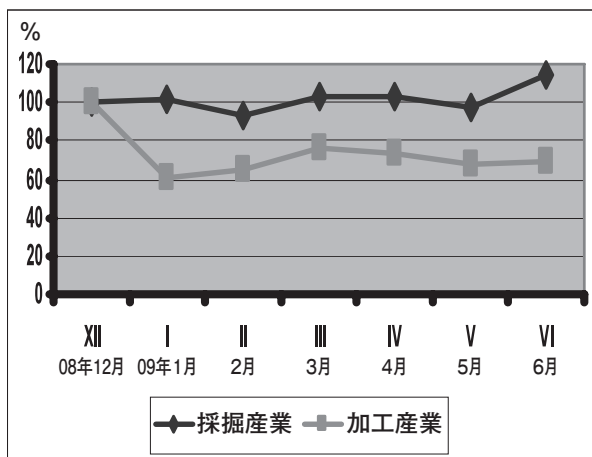
生産の縮小が最も激しかったのは、民需の機械製造業と建材製造業においてだった。プレハブ鉄筋コンクリートの構造物や部品の生産は2009年第1四半期には約30%減少し、セメントの生産量は60%減少した。その原因は、工事現場でこの種の製品の需要が激しく落ち込んだことだ。2008年全体で建設作業が7.1%減少した後、2009年上半期のロシア極東の建設業の生産量は15.5%減少した。

金融危機は木材業の状況も悪化させた。輸出関税が引き上げられる見込みであったことが影響し、2008年には既に木材輸出は2007年比で20%減少していた。2009年1～9月には減少幅は2008年同期比26.5%だった。

ロシア極東における生産の減少、また域内および外国貿易の取引高の減少は貨物輸送の減少を招いた（図3）。しかも、貨物輸送が減少したのは2009年だけではない。貨物輸送の減少は2008年下半期にも起こった。その結果、2008年の貨物輸送は2007年比86%にしかならなかった。さらに、2009年上半期全体の最大の落ち込みが鉄道輸送（2008年1～6月比73.6%まで減少）、沿海・内水面貨物輸送（同69%）で記録された。これは、外国貿易の減少によるシベリア横断鉄道の利用率の低下、さらに財政難によるロシア極東北部への物資供給の減少が原因である。

ロシア極東における経済活動のレベル低下、さらに消費者および生産者の不況感は労働市場の状況を著しく悪化させることになった。2009年1～7月、ロシア極東における失業者数は、10.4万人から15万人増え、11.5万人になった⁵。同時に、失業者数が雇用センターの求人を超過した数は、2009年1月の1.5万人に対して7月は3万人だった。失業者数の増加と不況感は、2001～2008年の間続いていた実質

図2. ロシア極東における産業部門の成長テンポ、単位：%



⁴ 「2009年1～6月の極東連邦管区の各地域の社会経済状況主要データ」第1部「各地の社会経済状況の可比データ」、国家統計局ハバロフスク支部、2009年。

「2009年1～6月の極東連邦管区の各地域の社会経済状況主要データ」第2部「ロシア連邦管内の連邦工生態の主要な特徴」、国家統計局ハバロフスク支部、2009年。

「2008年極東連邦管区の社会経済状況」国家統計局（モスクワ）、2008年。

⁵ 原文のまま。

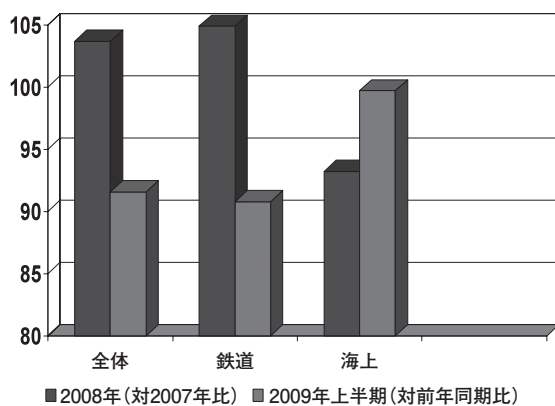
表 1. 極東連邦管区の生産量

製品	生産量、 2009年9月	2008年9月比(%)
木材の集材・運材、百万m ³	7.4	73.5
工業用木材、百万m ³	6.7	72.0
石炭、百万トン	19.5	82.4
石油（ガスコンデンセートを含む）、百万トン	12.8	133.3
可燃性天然ガス、10億m ³	7.9	123.8
非鉄石類建材、10億m ³	10.4	87.9
肉（副産物を含む）、千トン	39.3	116.3
ソーセージ製品、千トン	49.3	84.7
漁獲量（魚、海産物）、千トン	1935	115.8
水産加工品（魚缶詰を含む）、千トン	1731	112.7
魚および海産物の缶詰および準保存食品、百万個（標準缶で）	148	87.0
植物性油脂、千トン	19.4	190.4
乳製品（牛乳に換算）、千トン	199	101.8
パン・パン製品、千トン	224	97.7
製菓類、千トン	28.1	101.1
ウォトカ・リキュール類、百万デカリットル	1.7	81.9
ビール、百万デカリットル	29.3	93.7
ニット商品、百万点	1.6	93.8
レグウェア、百万足	3.3	89.3
靴、千足	1934	2.5倍
材木、千m ³	811	93.9
原油の一次精製、百万トン	8.4	96.1
硫酸一水和物	…	90.7
医薬品、百万ルーブル	1030	96.0
建築用レンガ、百万個（標準レンガ）	74.9	51.4
セメント、千トン	1270	50.1
プレハブ鉄筋コンクリートの構造物・部品、千m ³	410	73.1
鉄製圧延鋼材	…	46.8
エレクトリック・オーバーヘッドクレーン、基	9	18.4
動力変換器	…	86.0
電力、十億kWh	29.5	98.9

出所：国家統計局公式サイト（<http://www.gks.ru>）資料より。

「2009年1～9月のロシア連邦の社会経済状況（速報値）」、国家統計局、2009年。

図 3. ロシア極東の貨物輸送量の変化率



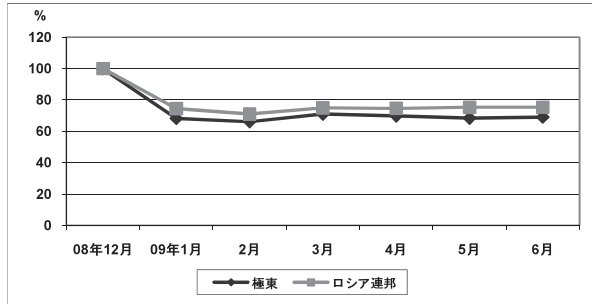
賃金の上昇の鈍化をもたらした。2009年第1四半期にはロシア極東における実質賃金はゼロ成長を示した。同時に、2009年1～9月には比較的高い水準でインフレが続いた。

ロシア全体の消費者物価指数は2008年12月比で8.1%上昇、ロシア極東では8.8%上昇だった。この際、もっとも高い成長を見せたのはサービス（9.3%）および工業製品消費者物価（9.6%）だった。後者はルーブルの下落（2009年9月までに約11%）の影響を反映している。

物価、雇用、消費者および生産者の景況感の連動は、ロシア極東における小売売上高がマイナスに変動する原因となった。2009年第1四半期はまだ、住民の名目所得が12.5%減少する中で総消費支出は2008年の水準（1ヵ月当たり約1万ルーブル）を維持していたが、これは貯蓄水準の低下、さらに公共サービス費の家計に占める割合が増えたことによる。その結果、小売売上高はかなり減少した（図4）。

ロシア極東における金融危機の特徴を最も明確に説明するのが、固定資本投資の動きである。ロシア全体の状況と

図4. 2009年のロシア極東およびロシア連邦の小売売上高



異なり（2009年の固定資本投資額はロシア経済全体で、2008年比40パーセントポイント減少）、ロシア極東における固定資本投資はこの地域の景況を示す指標によらない不変数であった（2008年および2009年第1四半期の増加率はそれぞれ7.8%、20.8%）。考えられる原因は、この地域の投資の大部分が連邦予算および地方予算から直接出ている、あるいは国の優先するインフラおよび域内システムの整備事業（例えばESPO石油パイプライン、ガスパイプライン、連邦自動車道の建設、ウラジオストク市におけるAPECサミット関連施設建設、南ヤクートの資源開発プロジェクトなど）とリンクしていることだ。

概して、金融危機の過程で、ロシア極東経済の部門構造は投資部門およびイノベーション部門が縮小して、消費部門の方向にシフトしている。有料サービスの構成比、さらに消費分野への投資の構成比の顕著な縮小は、構造変化の肯定的側面と考えるべきであろう。食品および食品以外の単純製品の一部については、輸入代替も起きている。

金融危機が「2013年までのロシア極東発展」プログラムに及ぼす影響

2008年8月、「ロシア極東地域発展」連邦特別プログラムはさらに修正が施され⁶、その結果、資金投入の総額は5,670億ルーブルから7,005億ルーブルに増額された。これは、「アジア太平洋地域における国際協力拠点としてのウラジオストク市発展」サブプログラムの資金投入金額がほぼ倍増したと関係している。この資金のうち75%以上が連邦から、約16%が企業から、そして9%がロシア連邦構成体から拠出される。

「プログラム」では、投資資金の7割以上が交通系統および地域電力系統の既存の施設の拡張と近代化、そして新規建設に投入されることになっている。2008年にはロシア極東の交通・輸送インフラ、電力系統、土木インフラ、公共分野の整備プロジェクトの実施に260億ルーブル強が投

入された。そのうち67%は連邦からの公的資金だった。資金の大部分（約7割）はカムチャツカ地方、沿海地方、ハバロフスク地方に集中している。

2008年には「プログラム」の枠内で電力系統施設の近代化および建設のプロジェクトが実施された。例えば、ウスチ・スレドネカンスク水力発電所（マガダン州）工事が継続された。この発電所によって将来、サハ共和国（ヤクーチア）の遠隔地の送電網が統合されたあと、「東西」および「南北」ルートの国家統一送電網の北翼ができていく。このほかにも、トルマチェフ川（カムチャツカ）の水力発電所群の建設、カムチャツカ地方およびサハ共和国（ヤクーチア）での小型火力発電所の建設、カムチャツカ地方およびマガダン州で様々な容量の高圧送電線の敷設が行われ、カムチャツカ地方、サハリ州、サハ共和国（ヤクーチア）でガスパイプライン建設および居住区のガス化（ガス燃料への移行）プロジェクトが実施された。

ロシア極東地域、特に北部地域（マガダン州、カムチャツカ地方、チュコト自治管区）の発展でもっとも重要な分野は交通・輸送インフラの整備である。北部の多くの地域にはそもそも自動車道がなく、空路と冬専用の自動車道路しかない。ロシア極東のこれらの地域には鉄鉱石や原料炭、銅、金、その他鉱物資源の大鉱脈が集中しているにもかかわらず、それらへのアクセスは限られている。そのため、道路はこの地域が発展するための主要な条件なのである。

2008年にはロシア連邦投資基金の支援で、この地域で最大のプロジェクトの一つ、コムソモリスク・ナ・アムールとソビエツカヤ・ガワニの間のクズネツォフ・トンネルの建設が始まった（ハバロフスク地方）。このトンネルは鉄道上の難所である。トンネル入口のきつい傾斜と急カーブによって、トンネルのキャパシティを上げることができない。新しいクズネツォフ・トンネルは2012年末までに完成することになっている。このトンネルの建設によって、この区間の重量規定および列車の運行速度を引上げることができ、その結果、ワニノ港およびソビエツカヤ・ガワニ港までの鉄道輸送のキャパシティを約3倍にすることができる。

マガダン州では、大型金鉱、特に有望なナタルキンスコエ鉱山との連絡を確保するための自動車道の改修工事が行われた。ナタルキンスコエ金鉱山は金の確認埋蔵量が世界第3位と評価されている。フィジビリティ・スタディによれば、ナタルキンスコエ採鉱・選鉱コンビナートの年間生産能力は、鉱石約4,000万トンと金32トン強である。自動車道改修プロジェクトが実施されれば、金生産会社「マト

⁶ 2008年8月25日付第644号ロシア連邦政府決議「『2013年までの極東およびザバイカルの経済社会発展』連邦特別プログラムの修正について」

「ロシア記念採鉱会社」の鉱業所は海洋港と接続されることになる。

チュコト自治管区では、改良して使用期間が延びた「ビリビノ-アニュイスク」間冬用自動車道路での河川橋の建設にかなりの資金が使われた。

ハバロフスク地方、カムチャツカ地方およびサハ共和国（ヤクーチア）で世界標準規格を満たす自動車道の建設が続行された。

「プログラム」では医療保健施設、教育施設、文化・スポーツ施設の新規建設および改修事業に莫大な資金が割り当てられている。

2008年には、ロシア極東全域で既存の医療保健施設の拡張・改修、病院・結核専門病院・腫瘍専門病院の新規建設、就学前教育施設および中等教育施設の新規建設が行われた。

サブプログラム「アジア太平洋地域における国際協力拠点としてのウラジオストク市の発展」は「プログラム」の一部である。このサブプログラムを実行するための主な起爆剤となっているのが、2012年のウラジオストク市でのAPECサミットの開催である。同時に、APECサミットの開催は最終目標ではなく、沿海地方全域の発展を促進するための手段であり、サミット開催準備はロシア極東の発展の総合的プランと調和しなければならない。サブプログラムに盛り込まれた事業を2008～2012年に実施するために、2,842億ルーブルの費用が見込まれており、このうち連邦からの公的資金が7割を占めている。

2008年、「プログラム」の資金のかなりの部分が、ウラジオストク市の金角湾横断橋の建設に拠出された。この橋は「ハバロフスク-ウラジオストク」間連邦自動車道とルースキー島を結ぶ道路に接続する。

「プログラム」のもう一つの事業がルースキー島に接続する東ボスポラス海峡横断橋の建設である。東ボスポラス海峡横断橋は独特の建造物である。この橋の中央支間長は1,104m、主塔の高さは320m。この橋の建設は両端から（ルースキー島と大陸側のウラジオストク市）行われている。工事で使われている多くの技術が、国内外で初めて実用化されるものである。現在、必要な数の機械や熟練作業員がこの建造物に集中的に投入されていることが、工事のスピードアップを可能にしている。

ウラジオストク市の空港の改修工事は「サブプログラム」のプロジェクトの一つである。現在、滑走路の改修が行われている。予定されている工事の終了後この滑走路は1km延長されて3.5kmになる。また、1時間に1,500人の乗客を処理することができるターミナルビル、1日に1万食を作る機内食工場、530室のホテル、1,000台分の駐車場か

ら構成される国際空港複合施設の建設も始まる。

「サブプログラム」では、ルースキー島における極東連邦大学の建設も予定されている。この目的で2008～2012年に417億ルーブルの拠出が計画されており、しかも全額が連邦からの公的資金である。このプロジェクトでは、20万m²の工事（管理・教育棟、体育館・プール・屋外運動場を備えた5,500人収容のホテル）が予定されている。極東連邦大学建設の第1段階では、約1万2,500人の学生の教育を予定している。この将来の学術教育拠点のベースになるのは、2012年APECサミット関連施設である。サミット開催の後、連邦大学は最高学府として機能し始める。サミット開催期間中は、大学の保有住宅がサミット参加者および来賓のためのホテルやアパートとして利用され、それらはサミット終了後に教授・講師陣、学生の宿舎となる。現在、建設用地の整備が進められており、1年後に主として大学棟の建設が予定されている。これが全作業の約3割を占めるものと専門家は見ている。

さらに、沿海地方とウラジオストク市がそれぞれ管轄する自動車道路網の改修および新規建設、公共インフラの整備（ウラジオストク市およびその他沿海地方の居住区での地下水源からの給水施設の建設、ウラジオストク市の公共下水道の改修、ウラジオストク市のゴミ処理リサイクル場の建設など）が行われた。

極東連邦管区の連邦構成体では、「2013年までの極東・ザバイカル経済社会発展プログラム」のほかにも交通輸送システム、建設、教育、医療、文化、スポーツなどの発展を目的とした20以上の連邦特別プログラムが実施されている。

世界金融危機はこれまでに採択された決定に独自の修正を施した。まず、財政資金は既に着工した工事を終了させるために使われている。

「2013年までの極東・ザバイカル経済社会発展プログラム」の一部プロジェクトについても修正があった。

例えば2008年には、サハ共和国（ヤクーチア）のみならず近隣地域にとっても「成長点」と有望視されている「南ヤクーチ総合開発」事業では、プロジェクト設計書の策定にロシア連邦投資基金から資金拠出するための申請について合意が取れていた。ところが2009年6月半ば、全国規模の投資プロジェクトに関する政府委員会の会合で、2009年の事業への資金出動の減額と、それを2010年に埋め合わせることが決まった。

サブプログラム「アジア太平洋地域における国際協力拠点としてのウラジオストク市の発展」にも修正が施された。一連の施設の見積金額が予算を大幅に上回っていることは今や明らかだが、一部の重要な事業が「サブプログラム」の

対象事業に全く含まれていなかった。ロシア連邦政府の決定に従い「サブプログラム」への資金出動の金額は変更されないが、施設の数が減らされた。特に、医療施設、オペラ・バレエ劇場の建設は延期された。

世界金融経済危機によってもたらされた目下の経済的困難にもかかわらず、国のロシア極東発展プログラムの中断は予想できない。これは、「プログラム」の枠内で実施されるプロジェクトがロシアの政治経済的イメージの強化を目的としているためだ。

金融危機がロシア極東の国際経済協力に及ぼした影響

世界金融危機に誘発された2008年下半期の外需の減少は、2008年第4四半期には既にロシア極東の輸出を激減させていた（貿易額は2007年同期比64.6%だった）。

この地域の外国貿易の状況が悪化した主な原因は、ロシア極東の主要貿易相手である北東アジア諸国の景況の著しい悪化だった（表2）。

国内総需要、特に投資需要の減少は、ロシア極東の輸出品品を含めほぼすべての輸入品の値下がりをもたらした。中国のマクロ経済指標の相対的な好調さも当てにならなかった。国内総需要と固定資本投資のトレンドに関するデータが欠けているものの、2009年の中国の輸入量の減少は、中国のマクロ経済トレンドが全世界と相似していることを証

明している。

値下がりにはロシア極東のほぼすべての輸出品目に及んだ（図5）。輸出額がもっとも激減したのは鉱物原料産業（95.3%減）、燃料エネルギー産業（36.7%減）、木材産業（36.5%減）の製品だった。冷凍魚の値段だけは2007年の水準にとどまった。

外需減少と物価低下は、ロシア極東の外国貿易にとってショックだった。水産加工品を除くロシア極東からの輸出品グループについては、金額は2008年1～9月を下回った（図6）。

外国市場の景況悪化に伴い、2009年のロシア極東の外国貿易（特に輸入）の取引高と構成にかなりの影響を及ぼしたのが、ルーブルの下落、国民の所得減少、内需縮小とい

図6. ロシア極東の輸出高（単位：百万ドル）

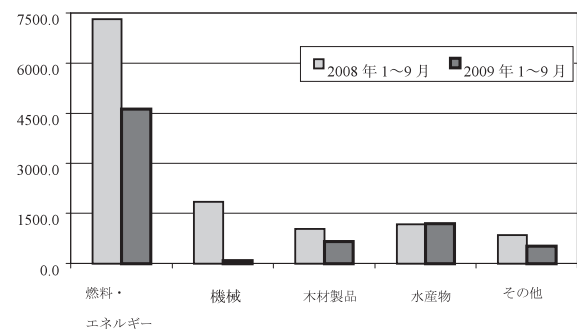


表2. 北東アジア諸国のマクロ経済指標（%）

指標	日本		中国		韓国	
	2008	2009	2008	2009	2008	2009
GDP	-0.7	-0.8	9.0	7.7	2.2	-2.2
輸入	0.9	-12.6	5.2	-7.8	3.7	-14.5
国内総需要	-0.9	-3.4	1.4	-4.6
固定資本投資	-5.0	-12.3	-1.7	-5.1

出所：OECDデータベース

図5. ロシア極東の輸出品の価格の推移（四半期、前年同期比変化率%）

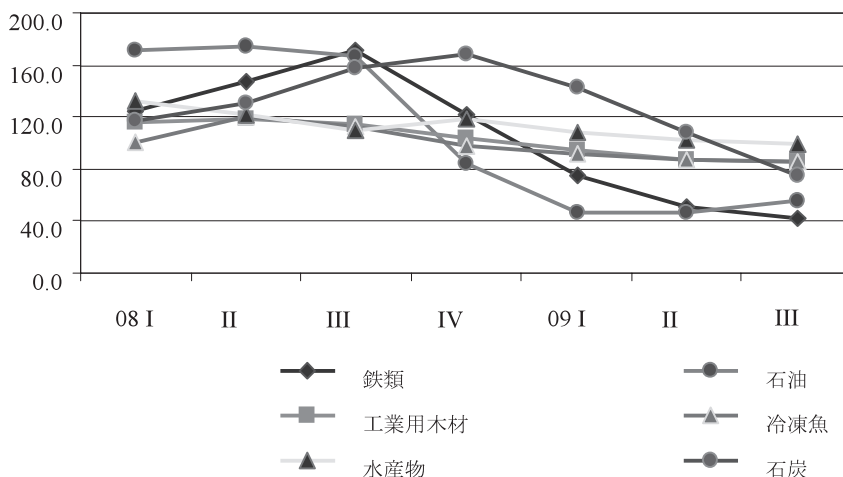


図7. ロシア極東の輸入高 (単位: 百万ドル)

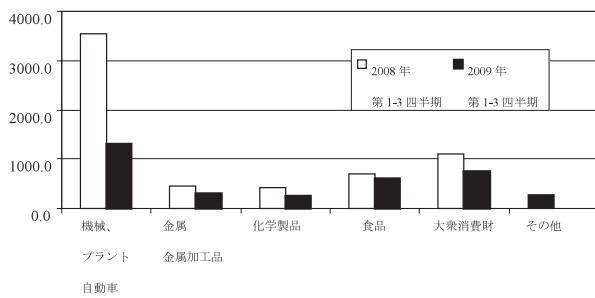


図8. ロシア極東の日本からの乗用車およびトラックの輸入高の推移 (単位: 百万ドル)

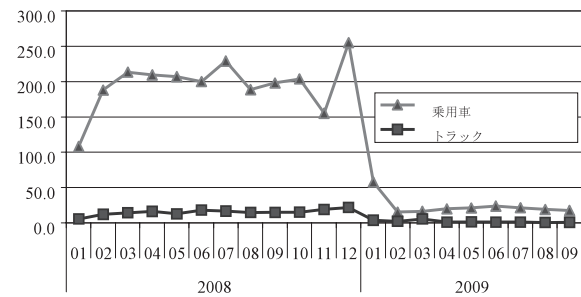


表3. 極東と北東アジア諸国との貿易高 (単位: 百万ドル)

	2008年 第1四半期	2008年 第2四半期	2008年 第3四半期	2008年 第4四半期	2009年 第1四半期	2009年 第2四半期	2009年 第3四半期
輸 出							
中国	425.6	482.9	501.1	481.6	426.5	691.1	587.6
韓国	1253.2	1500.7	1766.7	1256.5	697.9	770.8	1004.1
日本	1227.5	1128.1	1181.3	855.1	568.6	714.8	1032.4
北東アジア諸国	2906.3	3111.7	3449.0	2593.2	1693.0	2176.8	2624.1
輸 入							
中国	729.9	798.1	901.2	777.5	418.0	434.3	567.8
韓国	129.9	166.7	214.4	192.7	59.5	87.1	112.2
日本	543.6	765.4	725.7	648.7	135.8	98.4	99.0
北東アジア諸国	1403.4	1730.2	1841.4	1618.9	613.3	619.8	779.0

う要素の組合せだった。国家規制での新機軸は外国貿易の取引高とトレンドに深刻な影響を及ぼした。

主要通貨に対するルーブル相場下落（ルーブルの対ドル実質為替レートは、2009年1～9月で15.8%下落）、国民の実質所得の減少と生産およびサービス分野の沈滞による需要の縮小は、ロシア極東の輸入の減少をもたらした。輸入額は2009年1～9月で48.9%減少した。

もっとも顕著な落ち込みを示したのは機械、プラント、自動車の輸入だった。2009年1～9月でこのグループの輸入額は2.7分の1に減少した（図7）。この場合、ルーブルの下落以外の不安要素となったのが、ロシア政府の関税の新機軸だった⁷。輸入関税の大幅引き上げは中古車輸入にとって、原木輸出関税の引き上げと同様のショックであった（図8）。

世界金融危機の発生の規模および形態が各国で違うのは、個々の商品市場の反応が一様でないことと、ロシア極東と北東アジアの国々との貿易に差があることが原因である（表3）。例えば、乗用車輸入の減少は日本からの輸入の減少を招き（2008年比83.6%減）、その結果2009年第1～第3四半期にはロシア極東の輸入構造における日本の寄

与度は9.9%にまで縮小した（2008年は31.1%）。

2009年には韓国（49.3%減）や中国（41.5%減）からの輸入も著しく減少した。

韓国（45.3%減）および日本への輸出（34.5%減）が減少するなか、ロシア極東の輸出における対中国輸出は肯定的な動きを維持した（20%増）。中国への輸出の増加には、ロシア極東の燃料エネルギー製品（原油）および水産物（急速冷凍魚）の輸出の増加が寄与した。

よって、2009年のロシア極東の外国貿易において、近年日本や韓国に遅れを取っていた中国の寄与度が顕著に（2008年第1～第3四半期の11.5%から2009年の24.2%に）増加した。

金融危機から脱出する見通し

ロシア極東経済の金融危機からの脱出は、主に二つの要素に依存している。それはまず、ロシア経済の景気の安定化の見通し、次に北東アジア諸国の経済の回復速度である。

北東アジア諸国の間で最高の回復スピードを見せているのが、2010年にはGDP変化率が109%に達すると予想されている中国だ。中国経済の高い成長テンポが回復したこと

⁷ 参考文献7、8、9、10

は、中国経済の原料資源の需要規模が復活することも意味している。ロシアは、金融危機の過程で中国との投資協力の規模を本質的に拡大したアフリカ、ラテンアメリカ、オーストラリアに合流しようとしている。中国は既にこれらの国々の原料部門に莫大な投資を継続して行っている。特に、宣言文的でありながら構成としてはいかにも典型的な計画文書(プログラム)がこのことを証明している。これはプーチン首相の最近の北京訪問時に中ロ政府が合意したものである⁸。

この調印文書では、ロシア東部および中国東北部に個々の施設を建設しプロジェクトを実施するための協力について取り上げている(表4)。

調印された文書(プログラム)には、2004～2007年の間に一連の論文や書籍で発表された私の「ロシア極東における辺境の工業サービスの弧の形成構想」と重なる部分がある⁹。

しかしながら、事実上それ(プログラム)は、辺境の弧の形式ではなく、ロシアおよび中国領にまたがる輸送・交通ベルト地帯の形成について述べている。次に、このベルト地帯の中国領で大部分の加工および最終製品の生産を行う意図がある。いうまでもなくそれは、(私の)構想の基本概念を本質的に変更してしまうものである。

ロシア極東の資源経済を発展させるために中国から投資を引き込むというロシアの意向は実現されるだろうか? ロシア東部地域を「経済的に吸収」し、最終的にこの広大な地域を中国市場に固縛するという中国の意向は実現するだろうか? ロシアは中国市場を利用し、中国の販売チャンネルを通じて世界市場に進出できるだろうか? 北アジアにおける地戦略的均衡も、ロシア極東とザバイカル地域が金融経済危機からどうやって抜け出すかも、このことにかかっている。 [ロシア語原稿をERINAにて翻訳]

参考文献

1. V.V.クレショフ、V.I.ススロフ、V.E.セリベルストフ「シベリアの長期的発展の戦略的方針」、『地域：経済学と社会学』誌、2009年No.2
2. 国家統計局公式サイト(<http://www.gks.ru>)資料より。
3. P.A.ミナキル「地域経済、極東」、出版社「経済」(モスクワ)、2006年。
4. P.A.ミナキル「ロシアと極東における経済および危機」、『空間経済学』誌、2009年No.1

5. 「2009年1～6月の極東連邦管区の各地域の社会経済状況主要データ」第1部「各地の社会経済状況の可比データ」、国家統計局ハバロフスク支部、2009年。
6. 「2009年1～6月の極東連邦管区の各地域の社会経済状況主要データ」第2部「ロシア連邦閣内の連邦工生 態の主要な特徴」、国家統計局ハバロフスク支部、2009年。
7. 2008年12月10日付第943号ロシア連邦政府決議「個人が私的利用のためにロシア連邦の関税国境を経て輸入する商品に対する関税および租税の一律税率の適用に関する規定 第11項の修正について」
8. 2008年3月19日付台184号ロシア連邦政府決議「漁船、捕獲した水生生物資源とその加工品の手続き、およびロシア連邦の海洋港における国家管理の規則について」
9. 2008年12月24日付第990号ロシア連邦政府決議「ロシア連邦の内海、ロシア連邦領海、ロシア連邦の大陸棚、ロシア連邦の排他的経済水域での商業的操業時に捕獲され水生生物資源およびそれらの加工品のロシア連邦関税域への搬入(搬出)について」
10. 2008年12月2日付ロシア連邦関税局令第1514号「特定の商品(金属のスクラップおよび屑)の申告場所について」
11. 「2008年極東連邦管区の社会経済状況」国家統計局(モスクワ)、2008年。
12. G.I.ハニン、D.A.フォミン「2009年第1四半期のロシアの経済概況」、『EKO』誌、2009年No.7。
13. 「ロシアは中国の手に渡されるのか?」、<http://www.debri-dv.ru/>。
14. P.A.ミナキル(編)「ロシア極東とアジア太平洋諸国の経済協力」、出版社「RIOTIP」(ハバロフスク)、2007年。
15. P.A.ミナキル「北東アジアにおけるロシア」、「イノベーションの経済に向けたロシアの地方の動き」402頁、出版社「ナウカ」(モスクワ)、2006年。
16. P.A.ミナキル「太平洋ロシア-北東アジアとの経済協力への誘いと可能性-」、『空間経済学』誌、2005年No.4。
17. 「2009年1～9月のロシア連邦の社会経済状況(速報値)」、国家統計局、2009年。
18. 2008年8月25日付第644号ロシア連邦政府決議「『2013年までの極東およびザバイカルの経済社会発展』連邦特別プログラムの修正について」

⁸ 「ロシアは中国の手に渡されるのか?」、<http://www.debri-dv.ru/>。

⁹ 参考文献14、15、16

表 4. ロシア連邦東部および中華人民共和国東北部における共同建設案件

プロジェクト	ロシア国内	中国国内
1. 鉱床の開発、原料資源の生産	<p>ロシア国内</p> <p>ザバイカル地方</p> <p>1. ベレゾフスコエ鉱床〔鉄〕開発プロジェクト 2. ノイオン・トロゴイスコエ鉱床〔多金属鉱〕開発プロジェクト。 3. ザバイカル地方南東部の多金属鉱床の開発およびザバイカル採鉱冶金コンプレックスの創出： アグダインスコエ鉱床〔モリブデン〕、ブイストリンスコエ鉱床〔金・銅〕、クルトウミンスコエ鉱床〔金・銅〕、ソロネチェンスコエ鉱床〔アンチモン〕、ノボ・シロキンスコエ鉱床〔金・多金属鉱〕。 4. バイカル・アムール鉄道沿線のザバイカル地方北部の鉱床の開発（ウドカンスコエ〔銅〕、チネイスコエ〔銅およびチタン・バナジウム鉄鉱〕、ゴレフスコエ〔シニエライト〕）。</p> <p>イルクーツク州</p> <p>5. チェレムホフスキー地区サビンスコエ鉱床〔マグネサイト〕の開発 6. ニジニウデインスコエ鉱床〔金・銀・多金属鉱〕の開発。</p> <p>アムール州</p> <p>7. エブゲニエフスコエ鉱床〔燐灰石〕の開発。 8. クリコフスコエ鉱床〔ゼオライト〕の開発。</p> <p>ハバロフスク地方</p> <p>9. ソポリノエ鉱床〔錫〕の開発。</p> <p>ユダヤ自治州</p> <p>10. キムカノ・スタルスコエ鉱床〔鉄鉱石〕の開発と極東採鉱冶金コンビナートの建設。</p> <p>ブリヤート共和国</p> <p>11. ウラン・ウデ市周辺のレンガ工場向けの粘土鉱床の開発。 12. プリヤート共和国中部のセメント原料鉱床の開発（サイグラーエフスキー地区、セレンギンスキー地区、プリバイカルスキー地区）。</p> <p>サハリン州</p> <p>13. ムガチンスコエ鉱床〔石炭〕の開発。 14. ノビコフスコエ鉱床〔ケルマニウム含有褐炭〕の開発。</p> <p>マガダン州</p> <p>15. プロジェクト「オロエク有望地域内における探鉱作業および規格を満たす銅埋蔵量の発見」の共同実施。</p>	

	<p>カムチャツカ地方</p> <p>16. ヤゴディンスコエ鉱床〔天然ゼオライト〕の商業開発。 17. クルトゴフロフスコエ鉱床〔石炭〕の商業開発。</p> <p>チュコト自治管区</p> <p>18. ペーリソゴフスコエ鉱床〔石炭〕の開発： ・石炭の生産および加工。 ・船舶で石炭を出荷するための大水深の通年稼働の海洋港の建設。 ・110kVの送電線を「アナディリー・ペーリソゴフスキー」間に建設。 ・「アナディリー・ペルフネ・テレカイスコエ・ペーリソゴフスキー」間自動車道の建設。</p> <p>19. ペルフネ・エチンスコエ鉱床とオルホエ鉱床での探鉱作業と石油生産。</p>	
<p>2. 鉱物原料資源の加工</p>	<p>20. 極東連邦管区におけるポリオレフィン製造コンプレクスの共同建設（サハ共和国（ヤクーチア）およびサハリン州）。</p> <p>ザバイカル地方</p> <p>21. オロビヤニンスキー地区とモゴイトウトゥイスキー地区の境界区域にセメント工場を建設。</p> <p>イルクーツク州</p> <p>22. ウソルエ・シビルスコエ市にポリシリコンの製造コンプレクスを建設。</p> <p>23. 環境に優しい高品質の水の生産およびパッケージングの工場をクルトウク居住区に新規設立するという有限責任会社「神聖バイカル・イルクーツク」の投資プロジェクト。</p> <p>24. ㈱アンガルスケセメントのセメント工場の近代化。</p> <p>アムール州</p> <p>25. チャゴヤンスコエ鉱床〔石灰石〕を拠点にしたセメント・クリンカー工場の建設。</p> <p>ハバロフスク地方</p> <p>26. ニランスコエ鉱床〔石灰石〕とソクドユカンスコエ鉱床〔粘土原料〕を拠点としたセメント工場の建設。 27. トウグロ・チュミカンスキー地区でのクティン鉱床〔金〕を拠点とした探鉱・選鉱コンプレクスの建設。</p> <p>ブリヤート共和国</p> <p>28. かすみ岩加工の合弁企業の設立。</p> <p>マガダン州</p>	<p>黒龍江省</p> <p>1. 伊春市における年間生産量150万トンの鉱物資源の総合開発（鉄精鉱、鉛精鉱、亜鉛精鉱）。</p> <p>2. 鶴崗市における坑内ガス・排水の採取およびその利用プロジェクト。</p>

<p>3. 木材加工コンプレックス</p>	<p>29. マガダン周辺の鋸床の褐炭の総合加工。</p> <p>カムチャツカ地方</p> <p>30. ハラクテイルスコエ鋸床のナタン磁鉄鉱の廃棄物ゼロ加工。</p> <p>31. エリゾフスキエー地区における地元の原料（パパライト）を使用した断熱材生産。</p>	<p>3. ハルビン市賓州における中ロ木材卸市場および木材加工基地「ユアンフエン」。</p> <p>4. チチハル市における木製防火ドアの生産（年間生産量2万枚）と台所用家具の生産（年間生産量5万点）。</p> <p>5. 牡丹江市における林業と製紙業の統合プロジェクト。</p> <p>6. 綏芬河市における輸出向け高・中密度繊維板の生産（年間生産量2.2m³）。</p>
<p>3. 木材加工コンプレックス</p>	<p>32. ザバイカールスク居住区での木材の高度加工企業の設立。</p> <p>33. チタ市での木材加工コンビナートの建設。</p> <p>イルクーツク州</p> <p>34. 「チュンスキー木材加工コンビナート」をベースにした木材高度加工コンプレックスの設立。</p> <p>35. タイシエット木材加工コンプレックスの設立。</p> <p>36. ウスチ・クート地区での木材加工コンプレックスの設立。</p> <p>アムール州</p> <p>37. チップ・MDF合板・OSB合板・乾燥木材の廃棄物ゼロ生産サイクルをベースにしたBAM鉄道エリアでの木材加工コンプレックスの設立。</p> <p>38. 木材高度加工コンプレックスの設立、ビロビジャン市、ニジニ・レニンスコエ村、パシユコボ村。</p> <p>ユダヤ自治州</p> <p>39. 材木およびプレハブ木造建築用部品の工場の設立、スクバイ居住区。</p> <p>40. 化粧板工場の設立、ビヤゼムスキー市。</p> <p>41. OSB合板工場の設立、コムモリスク・ナ・アムーレ市。</p> <p>42. 木材高度加工センターの設立、アムールスク市。</p> <p>43. ペニヤ板および材木の工場の設立、ソルネチヌイ地区ハルチパン居住区。</p> <p>44. MDF合板工場の設立、ベリョゾブイ居住区。</p> <p>45. 年間生産能力10万m³の製材所の設立。</p> <p>ブリヤート共和国</p> <p>46. 木材高度加工コンプレックスの設立、ホリンスク居住区。</p> <p>47. 材木およびプレハブ木材建築用部品の工場の設立、ムイスキー地区タクシモ居住区。</p> <p>48. OSB合板工場の共同建設、ウラン・ウデ市。</p>	<p>黒龍江省</p> <p>3. ハルビン市賓州における中ロ木材卸市場および木材加工基地「ユアンフエン」。</p> <p>4. チチハル市における木製防火ドアの生産（年間生産量2万枚）と台所用家具の生産（年間生産量5万点）。</p> <p>5. 牡丹江市における林業と製紙業の統合プロジェクト。</p> <p>6. 綏芬河市における輸出向け高・中密度繊維板の生産（年間生産量2.2m³）。</p>

	<p>49. 製材所の設立、ヤコブアレフスキ地区。 沿海地方 サハリン州 サハリン州での木材高度加工の組織。 51. OSB合板工場の共同建設、ノグリキ地区ヌイシユ居住区。</p> <p>52. 木材加工コンプレクスの共同設立、スレドネカンスク地区。 マガダン州 カムチャツカ地方 53. 木材高度加工コンプレクスの建設、ミルコボ地区。</p>	
<p>4. エネルギー事業</p>	<p>54. ロシア連邦極東および東シベリアにおける新規の発電所の建設および配電インフラの整備。 アムール州 55. 電圧500kWh¹⁰の交流送電線153kmをアムール変電所から中ロ国境まで建設。 56. エルコバツカヤ火力発電所の建設。</p> <p>57. ハバロフスク市での天然ガスによるコンバインドサイクルプラント（出力400～500mW）の建設。 58. ペルフェブレイスキー地区でのウラルスカヤ火力発電所の建設。</p> <p>59. コルイマ川のウスチ・スレドネカンスクヤ水力発電所を建設。 60. スレドネカンスク地区での水素燃料工場の建設。</p> <p>マガダン州 チュコト自治管区 61. 製油コンプレクスの建設： ・アナデイリ市の製油所 ・「ペルフェ・テレカイスコエーアナデイリ」間石油パイプライン（138km） ・ヘッドポンプステーション ・石油備蓄基地（300m³） ・原油出荷ベース</p>	<p>内モンゴル自治区 7. 通遼市ナイマン（奈曼）旗での高速熱分解および褐炭ブリケット化によるコークスの実証生産（年間生産量120万トン）。</p> <p>黒龍江省 8. 風力発電所（出力85万kW）と水力発電所（出力14万kW）の建設。</p> <p>吉林省 9. 発電プラントの再建および出力拡張（年間余剰出力1.8万トン¹¹）、四平市。</p>
<p>5. 製造企業</p>	<p>62. ザバイカルスク居住区とモゴイトウイ居住区に工業地帯を建設。 イルクーツク州</p>	<p>内モンゴル自治区 10. 1, 4-ブタンジオールの生産（年間4.5万トン）、フルンボイル市ハイラル地区。 11. ポリシリコンの生産（年間3,000トン）、フルンボイル市循環経</p>

¹⁰ 原文のキキ。

¹¹ 原文のキキ。

<p>63. バイカルク市での省エネ暖房器およびナノ構造の面状発熱体をベースにした微気候（マイクログロウライメート）制御システム の製造。</p> <p>64. ライチヒンスク市でのガラス製品および陶器の工場の建設。</p> <p>65. ペロゴルスク岳詰工場の近代化。</p> <p>66. プラゴベシチェンスク市におけるエレベーターの共同生産プロジェクト。</p> <p>67. テプロオジョルノエ・セメント工場の再建。</p> <p>68. 経済貿易合作区「康吉」、ウスリースク市。</p> <p>69. 工業パーク、ミハイロフスキー地区。</p> <p>70. 家電製品の製造組立基地「アルチョーム」。</p>	<p>63. バイカルク市での省エネ暖房器およびナノ構造の面状発熱体をベースにした微気候（マイクログロウライメート）制御システム の製造。</p> <p>64. ライチヒンスク市でのガラス製品および陶器の工場の建設。</p> <p>65. ペロゴルスク岳詰工場の近代化。</p> <p>66. プラゴベシチェンスク市におけるエレベーターの共同生産プロジェクト。</p> <p>67. テプロオジョルノエ・セメント工場の再建。</p> <p>68. 経済貿易合作区「康吉」、ウスリースク市。</p> <p>69. 工業パーク、ミハイロフスキー地区。</p> <p>70. 家電製品の製造組立基地「アルチョーム」。</p>
<p>12. 大型工場設備の組立（年間5,000台）、フルンボイル市経済開発区。</p> <p>13. 高級・中級家具の生産（年間30万セット）、満洲里市。</p> <p>14. ポリシリコンの生産（年間1,000トン）、満洲里市。</p> <p>15. 小型・中型採鉱用機械の生産（年間1,500台）、赤峰市ヘシグテン旗。</p> <p>16. 電気機器会社「フンウェン」の資産の組織再編、赤峰市元宝山区。</p> <p>17. 亜鉛・鉛・錫およびそれらの合金の生産（年間6万トン）、赤峰市ヘシグテン旗。</p> <p>18. 銅板の生産（年間7万トン）、赤峰市カラチン旗。</p> <p>19. 銅板および銅箔の生産（年間2万トン）、赤峰市元宝山区。</p> <p>20. 銅の高度加工プロジェクト（年間10万トン）、通遼市ホルチン左翼後旗。</p> <p>21. 石炭改質用機械・プラントの製造、ホリンゴル県。</p> <p>22. アルミ合金ゴットの高度加工プロジェクト、ホリンゴル県。</p> <p>23. モノクワスタルシリコンの生産（年間2,000トン）、ホルヒンゴル県。</p> <p>24. アルミニウム鋼ケーブルプロジェクト（年間2.5万トン）、ホリンゴル県。</p> <p>25. 採鉱用機械の製造および修理、シリリング経済技術開発区。</p>	<p>24. 電着塗装の型枠の製造（年間13万枚）およびサブミクロン粒子の均質黒鉛の生産（年間1.5万トン）、ハルビン市。</p> <p>25. 炭化水素系化学素材の生産（年間30万トン）、牡丹江市。</p> <p>26. ポリシリコンの製造（年間3,000トン）、牡丹江市。</p> <p>27. 家電製品の製造および組立、牡丹江市東寧県。</p> <p>28. スポンジタタンの製造（年間3万トン）、ジャムス市。</p> <p>29. 電解アルミニウムコンピナート（年間100万トン）ジャムス市。</p> <p>30. 石炭化学コンピナートを10万トンに拡大、七台河市。</p> <p>31. 磷肥料の生産（年間120万トン）、鶴崗市。</p> <p>32. ジアミノフォース（DMP）の生産（年間24万トン）、黒河市。</p> <p>33. ポリクリスタルの生産（年間1,500トン）、黒河市。</p> <p>34. ポリシリコン（年間5,000トン）および工業用シリコン（年間14万トン）の生産、黒河市。</p> <p>35. 有機シリコンの生産（年間20万トン）、黒河市。</p> <p>36. ミネラルウォーターの生産（年間40万トン）、五大连池市。</p> <p>37. 自動車輸出基地および電気機器販売センター、黒河市。</p>
	<p>38. 大画面LED搭載カラーディスプレイの生産（年間3万m²）、長春市。</p> <p>39. ガソリンと電気のプラグインハイブリッド乗用車（PHEV）の</p>

<p>生産、年間10万台、長春市。 40. 酵素剤の生産（年間5万トン）、長春市。 41. 不飽和エステル樹脂の生産（年間5万トン）、長春市。 42. ナノサイズ炭酸カルシウムの生産（年間5万トン）、長春市。 43. キシリトールの生産（年間1万トン）、長春市。 44. 採炭機械および連続採炭機の生産（年間2,800台）、吉林市。 45. 耐ノッキングバルブ製品の生産、吉林市。 46. 繊維強化、表面被覆用レーザー装置の生産（年間100セット）、吉林市。 47. MDI（4,4-ジフェニルカルビルノール、ジソニルメタンジイソシアネート）の生産（年間30万トン）、吉林市。 48. ジナフチルの生産（年間1.5万トン）、吉林市。 49. 縦軸型回転仮機機の製造（年間5,800台）、四平市。 50. フィルム型アモルファス太陽電池の生産（年間30MW）、四平市。 51. 好気性バイオ流動床複合処理装置の製造（年間30セット）、四平市。 52. 太陽電池生産ラインの製造（年間300MW）、遼源市。 53. リチウムイオン電池の交換膜の生産（年間4,400万m²）、遼源市。 54. 活性炭ファイバーの生産（年間500トン）、遼源市。 55. ポリマーマトリックス天然活性炭の生産（年間2万トン）、遼源市。 56. リムジン用とトラック用のゼロアスベスト・ブレーキライニング（それぞれ年間300万キット、1,000万枚）の修理、通化市。 57. 軽焼マグネシアの生産（年間1.5万トン）、集安市。 58. SOG6Nシリコンの生産（年間1,000トン）、集安市。 59. 生ワクチンプロジェクト（年間生産量300万個）、白山市。 60. 様々な活性化剤の生産（年間4,800トン）、臨江市。 61. セルロースファイバーの生産（年間20万トン）、白城市。 62. 車体カバーの型式製作（年間2,000キット）、白城市。 63. オイルフイードチューブおよびブッシュの処理（年間20万トン）、松原市。 64. イタコン酸の生産（年間7,000トン）、松原市。 65. 生分解性消毒剤の製造（年間6,000トン）、延辺朝鮮族自治州。 66. 抗皮形成掘削液の生産（年間6,000トン）、図們市。 67. 中ロ自動車部品基地の建設、琿春市。 68. 原木下処理工業地帯プロジェクト（年間20万m³）、琿春市。</p>	<p>遼寧省 69. 経済開発区における動力変換装置および産業クラスタの部品の生産、瀋陽市。 70. 変圧器のブッシュ、および11万～100万ボルトへの直流・交流（UHV AC-DC）の高圧変圧器の生産（年間3,500個）。 71. 環境に優しい新型プラスチック管の生産（年間500万メートル）、瀋陽市。</p>
--	--

<p>6. 食品加工、農業、漁業</p>	<p>71. 砂糖および関連製品の生産、イワノフスキー地区。 72. 農作物栽培での協力プロジェクト。 73. 大豆の高度加工企業の設立、ビロビジャン市。 74. 養豚コンプレックスの建設、スミトビチ居住区。 75. ビドジャンスキーとテプロフスキーのサケ・マス養殖場の再建。 76. 農業分野での協力。 77. 農業分野での協力 78. 海獣猟、原料の高度加工および薬劑・化粧品・精肉・毛皮皮革製品の生産の共同組織、マガダン市。 カムチャツカ地方</p>	<p>72. 土木工事用高精度セラミック構造材の生産(年間7,000万個)、瀋陽市。 73. 人工石板・タイル(年間70万m²)および水晶版(年間60万m²)の生産、瀋陽市。 74. 複合材料(コンポジットマトリアル)使用の自動車製品の生産(年間14万トン)、瀋陽市。 75. 自動車用金型生産センター、瀋陽市。 76. 塗料の生産(年間2万トン)、瀋陽市。 77. コンピュータ数値制御ツインテーパー型移動用ガントリ型工作機械(VMG4-2T/2R)による加工センターの設立、大連市。 78. ロシア製コーールドガスタイミックスプレアの導入、大連市。 79. ナノコンポジットによる金属および金属の腐食再生の強化技術の開発、大連市。 80. 電解銀メッキおよび再生メッキのプラント生産時の電気標準の統一、大連市。 81. 新世代菌車無し減速装置の共同開発、大連市。 82. インフルエンザ予防のための遺伝子組換えによるワクチン生産での中口協力、大連市。 83. 生物学研究および遺伝子工学に関する中ロセンターの設立、大連市。 84. ポリシリコン技術センターの設立、およびポリシリコン生産ライン(年間1,500トン)の建設、錦州市。 85. 新型暖房パイプの研究および開発での協力、鞍山市。 86. 特殊自動車の生産(年間3,000台)、鉄嶺市。 87. 熱交換設備の製造(年間6万台)、鉄嶺市。</p>
<p>6. 食品加工、農業、漁業</p>	<p>71. 砂糖および関連製品の生産、イワノフスキー地区。 72. 農作物栽培での協力プロジェクト。 73. 大豆の高度加工企業の設立、ビロビジャン市。 74. 養豚コンプレックスの建設、スミトビチ居住区。 75. ビドジャンスキーとテプロフスキーのサケ・マス養殖場の再建。 76. 農業分野での協力。 77. 農業分野での協力 78. 海獣猟、原料の高度加工および薬劑・化粧品・精肉・毛皮皮革製品の生産の共同組織、マガダン市。 カムチャツカ地方</p>	<p>72. 土木工事用高精度セラミック構造材の生産(年間7,000万個)、瀋陽市。 73. 人工石板・タイル(年間70万m²)および水晶版(年間60万m²)の生産、瀋陽市。 74. 複合材料(コンポジットマトリアル)使用の自動車製品の生産(年間14万トン)、瀋陽市。 75. 自動車用金型生産センター、瀋陽市。 76. 塗料の生産(年間2万トン)、瀋陽市。 77. コンピュータ数値制御ツインテーパー型移動用ガントリ型工作機械(VMG4-2T/2R)による加工センターの設立、大連市。 78. ロシア製コーールドガスタイミックスプレアの導入、大連市。 79. ナノコンポジットによる金属および金属の腐食再生の強化技術の開発、大連市。 80. 電解銀メッキおよび再生メッキのプラント生産時の電気標準の統一、大連市。 81. 新世代菌車無し減速装置の共同開発、大連市。 82. インフルエンザ予防のための遺伝子組換えによるワクチン生産での中口協力、大連市。 83. 生物学研究および遺伝子工学に関する中ロセンターの設立、大連市。 84. ポリシリコン技術センターの設立、およびポリシリコン生産ライン(年間1,500トン)の建設、錦州市。 85. 新型暖房パイプの研究および開発での協力、鞍山市。 86. 特殊自動車の生産(年間3,000台)、鉄嶺市。 87. 熱交換設備の製造(年間6万台)、鉄嶺市。</p>
<p>6. 食品加工、農業、漁業</p>	<p>71. 砂糖および関連製品の生産、イワノフスキー地区。 72. 農作物栽培での協力プロジェクト。 73. 大豆の高度加工企業の設立、ビロビジャン市。 74. 養豚コンプレックスの建設、スミトビチ居住区。 75. ビドジャンスキーとテプロフスキーのサケ・マス養殖場の再建。 76. 農業分野での協力。 77. 農業分野での協力 78. 海獣猟、原料の高度加工および薬劑・化粧品・精肉・毛皮皮革製品の生産の共同組織、マガダン市。 カムチャツカ地方</p>	<p>72. 土木工事用高精度セラミック構造材の生産(年間7,000万個)、瀋陽市。 73. 人工石板・タイル(年間70万m²)および水晶版(年間60万m²)の生産、瀋陽市。 74. 複合材料(コンポジットマトリアル)使用の自動車製品の生産(年間14万トン)、瀋陽市。 75. 自動車用金型生産センター、瀋陽市。 76. 塗料の生産(年間2万トン)、瀋陽市。 77. コンピュータ数値制御ツインテーパー型移動用ガントリ型工作機械(VMG4-2T/2R)による加工センターの設立、大連市。 78. ロシア製コーールドガスタイミックスプレアの導入、大連市。 79. ナノコンポジットによる金属および金属の腐食再生の強化技術の開発、大連市。 80. 電解銀メッキおよび再生メッキのプラント生産時の電気標準の統一、大連市。 81. 新世代菌車無し減速装置の共同開発、大連市。 82. インフルエンザ予防のための遺伝子組換えによるワクチン生産での中口協力、大連市。 83. 生物学研究および遺伝子工学に関する中ロセンターの設立、大連市。 84. ポリシリコン技術センターの設立、およびポリシリコン生産ライン(年間1,500トン)の建設、錦州市。 85. 新型暖房パイプの研究および開発での協力、鞍山市。 86. 特殊自動車の生産(年間3,000台)、鉄嶺市。 87. 熱交換設備の製造(年間6万台)、鉄嶺市。</p>

	<p>79. 天然銀イオン水の生産、ルースカヤ湾。 80. 海面栽培の振興。 81. 水生生物資源の高度加工場の建設、ペトロパブロフスク・カムチャツキー市。 チュコト自治管区 82. 海獣類、原料の高度加工および薬剤・化粧品・精肉・毛皮皮革製品の生産の共同組織。</p>	
<p>7. 建設業および建材業</p>	<p>アムール州 83. 「北居住区」の総合建設、ブラゴベシチェンスク市。 ブリヤート共和国 84. レンガ工場の建設、イボルギンスキー地区クラスノヤロボ居住区。 85. 小居住区の建設、ウラン・ウデ市。 サハリン州 86. 手ごろな価格の住宅の建設。 87. レンガ工場の建設、「ドリンスク都市管区」ソスノフカ居住区。 88. 玄武岩繊維およびそれをベースにした断熱材の工場の建設、ユジノサハリンスク市。 カムチャツカ地方 89. ペトロパブロフスク・カムチャツキー都市管区およびエリゾボ地区での住宅建設。</p>	<p>黒龍江省 94. 有限責任会社「セメント・ハオリヤンヘ」の再建と年間生産量300万トン拡張、伊春市。 95. クリンカーの生産量を120万トン拡張、ジャムス市。 吉林省 96. オートクレープ（高温高圧蒸気）養生砂・石灰レンガの生産（年間10億個）、長春市。 97. コンクリートの生産（年間120万トン）、琿春市。 98. 高密度パーケットの生産量（180万m²）の拡張、琿春市。</p>
<p>8. 観光振興</p>	<p>イルクーツク州 90. 観光・レクリエーション型経済特区「バイカル・ハーバー」の観光インフラ施設建設への中国の投資の誘致。 カムチャツカ地方 91. 観光インフラ施設の建設（スキリーゾート地、スバ付きホテル、ホテル）、エリゾボ地区、ミルコボ地区。</p>	<p>黒龍江省 99. 牡丹江の国際展示センター「極東」。 100. 世界貿易センター、ジャムス市撫遠県。 101. ベイヘイダオ温泉パークの建設、大慶市。 102. 映像娯楽施設の建設、伊春市。 103. アムール川沿いの観光ルート「嘉蔭－蘿北」の開拓、伊春市。 104. 観光基地「北極の町」の建設、大興安嶺地区漠河県。</p>
<p>9. 輸送</p>		<p>黒龍江省 105. ロジスティクスセンターの建設、牡丹江市（牡丹江企業「フア・マオ」）。 106. 国際ロジスティクスパーク、綏芬河市。 吉林省 107. 辺境口岸の港湾の物流地帯の建設、図們市。 遼寧省 108. 中ロ貿易物流センターの設立、鉄嶺市。</p>

出所：「ロシアは中国の手に渡されるのか？」、<http://www.debri-dv.ru/>

¹² 原文の#4。

The Global Financial Crisis and the Economy of the Russian Far East

MINAKIR, Pavel A,

Director, The Economic Research Institute of the Far Eastern Branch of the Russian Academy of Sciences

Summary

The Russian economy immediately prior to the global financial crisis was of the form "exporting nation-debtor nation," greatly dependent on the inflow of capital to exports, such as energy resources, and to the private sector. The Russian economy has suffered a double whammy (a decrease in external demand and the withdrawal of foreign capital) via the global financial crisis.

The economy of the Russian Far East has also suffered a double whammy, yet this was a decrease in external demand and a decrease in domestic demand. For the manufacturing sector oriented toward the domestic consumer market, and the electricity generating industry and energy industry, however, the relative decrease in output was small. On the other hand, the production of commercial machinery manufacturing and of the construction materials industry greatly decreased. The result was that the volume of freight transportation also decreased. Additionally, the labor market has also worsened, and the increase in real wages has also stalled. Characteristic in the economy of the Russian Far East is that fixed capital investment has increased (a 20.8% increase in the first half of 2009). This is probably due to government investment and the implementation of National Priority Projects.

On the whole, a structural change has occurred in the economy of the Russian Far East, where the investment-goods-producing sector is decreasing and the consumption-goods-producing sector is increasing. The facts that the share of the service industry has fallen and that the share of investment in the area of consumption has fallen can be raised as positive changes. Import substitution has been occurring in food and other relatively basic goods.

In August 2008 the Far East and Zabaykalye regional development program was reviewed, and the amount of investment increased from 567 billion rubles to 700.5 billion rubles. On that occasion, the investment amount for the subprogram "The Development of Vladivostok as a Center for International Cooperation in the Asia-Pacific Region" doubled. More than 70% of the investment amount for the program is aimed at the development of transportation infrastructure and electricity infrastructure. In addition the construction and improvement of health, education, cultural and sports facilities is also to be carried out. The construction of a bridge across the Golden Horn, the construction of a bridge across the Eastern Bosphorus, the improvement of the international airport, and the construction of conference facilities which will

later become federal university facilities, etc., are to be carried out within the framework of the city development subprogram for Vladivostok.

Hit by the crisis, changes have taken place for part of the project. For example, in the "South Yakut Comprehensive Development" project—for which the funding was decided would come from the "Investment Fund" in 2008—the 2009 budgetary reduction and the supplementation of the 2010 budget were fixed in June 2009. Furthermore, in the city development subprogram for Vladivostok, while the budget total will not change, the construction of part of the facilities was pushed back.

Via the contraction of external demand accompanying the global financial crisis, exports in the fourth quarter of 2008 for the Far Eastern region were only 64.6% of those for the same period of the previous year. The decrease in exports has been continuing in 2009 too. The drop in the price of exports has also been affecting this. Concerning imports, the depreciation of the ruble, the decline in household incomes, and the contraction in domestic demand have been having an influence. In addition, the announcements of the rise in tariffs for imported secondhand cars and for raw timber exports have been having a profound influence on market trends.

Escape from the crisis in the economy of the Russian Far East depends on two factors. One is the prospect for the stability of good economic conditions in the Russian economy as a whole. The other is the speed of economic recovery in the countries of Northeast Asia. Among the countries of Northeast Asia, the one displaying the most rapid recovery is China. Russia and China have reached agreement on cooperating in the implementation of (multiple) projects in the eastern part of Russia and in the northeastern part of China.

Will Russia's intent to attract Chinese investment for the economic development of Russia's Far Eastern resources be realized? Will China's idea of "economically swallowing up" the eastern part of Russia, ultimately making the region a part of the Chinese market, be realized? Will Russia be able to utilize the Chinese market, and go out into the international market via the route of sales in China? The geopolitical and strategic balance of Northeast Asia depends on this, as also does how the Russian Far East and Zabaykalye will escape the crisis.

[Translated by ERINA]